

両国まちあるき瓦版其の拾

～ぐるり、めぐり、ごくり、きらり、びっくり、やはり、りようごく～

★2月の国技館！つまり、歓喜の歌！（2/22）

両国の冬の恒例行事である“国技館5000人の第九コンサート”が、今年も開催されます。この40年以上続く、両国からすみだがひとつになるイベントについて、その“よろこび”とともに、ご紹介します。

○そもそも、第九とは

正式には、“交響曲第9番 二短調 作品125”といい、ベートーヴェンが1824年に作曲した独唱と合唱を伴う交響曲のこと。全第4楽章からなり、ソナタ形式の第1楽章、スケルツォの第2楽章、アダージョの第3楽章、そしてこれまでの3楽章を否定し、“歓喜の歌”が歌われる第4楽章からなる。第九と言えば“歓喜の歌”のイメージではあるが、一般的な演奏時間は、70-75分程度という当時の交響曲としては破格の長さとなっている。ちなみに、CDの規格が74分前後になったのは、この第九が1枚に収まるようにしたという有名な説もある。

○これまでの開催（抜粋）

- 第1回：1985. 2. 17 “おかえりなさい国技館”
 第3回：1987. 2. 22 “音楽都市をめざして”
 第6回：1990. 2. 18 “歌う歓び 聴く歓び”
 第7回：1991. 2. 24 “音楽 それは平和への願い”
 第9回：1993. 2. 21 “苦悩を経て歓喜へ”
 第10回：1994. 2. 20 “第九との出会い10年”
 第14回：1998. 3. 1 第12回：1996. 2. 18 “明日のために
 “未来に輝く子どもたちに 感動をわかち合おう”
 愛と音楽を—すみだトリフォニーホールの船出—”
 第16回：2000. 2. 27 “新1000年に継ぐ歓喜の歌を”
 第17回：2001. 3. 11 “21世紀に夢をのせて”
 第18回：2002. 2. 24 “平和と友情 アジアの願い”
 第20回：2004. 2. 22 “第九を世界平和の
 メッセージに…”
 第25回：2009. 2. 22 第21回：2005. 2. 27 “世界はひとつ、
 “共生”人と自然が EUも友だち、第九の世界連合へ”
 共に生きる”
 第23回：2007. 2. 25 “第九はあらゆる
 Ludwig van Beethoven 人びとの交流、交歓の広場”
 第28回：2012. 2. 26 “復活の祈り—第九と共に—”
 第30回：2014. 2. 23 “スカイツリーの街
 “心でつなぐハーモニー—”
 第35回：2019. 2. 24 “歌いつごう すみだの第九”
 第36回：2020. 2. 23 “令和へつなぐ 第九の心”
 ————2021年から2023年まで、コロナ禍の影響で中止———
 第37回：2024. 2. 18 “復活の第九・未来への第九
 初演から200年の時を超えて”

○きっかけ

“瓦版其の伍”で紹介したとおり、蔵前に移転していた国技館が、1985年に両国の地へ戻ってくるようになった。初場所後の2月17日に、その落成を祝賀する目的で記念式典とともに“両国新国技館歓迎祝賀5,000人の第九コンサート”が開催された。このコンサートが大成功を収めた結果、そのときの演奏の感動と喜びをより多くの人々に伝え広めるため、また、隅田川の東側地域の活性化に繋がりたいという想いで、翌年以降の開催が決まり、行政や地方の音楽文化の向上などに取り組んでいた指揮者の石丸寛氏が中心となって企画された。さらに、この第九コンサートが1988年3月に墨田区が発表した“墨田音楽都市構想”を推進するにあたっての中心事業に位置付けられた。

○国内の有名な市民参加型 第九コンサート

- サントリー—万人の第九（大阪城ホール）
- 第九交響曲“歓喜の夕べ”（富山・オーバード・ホール）
- 新潟第九コンサート（新潟市民芸術文化会館）
- あわさき市民第九コンサート（ミュゼ川崎シンフォニーホール）
- 藤沢市市民オペラによる「第九」（藤沢市民会館）
- 鎌倉芸術館「第九」コンサート（鎌倉芸術館）
- 水戸に響け！300人の「第九」（水戸芸術館前広場）
- 第九ひろしま（広島サンプラザホール）
- 東京フロイデ合唱団「第九」演奏会（東京芸術劇場）

○前回のコンサート

墨田区民だけではなく、一般公募により全国各地、そして海外からも合唱参加者が集まる“国技館の第九”。昨年の第38回コンサートでは、最年少の7歳から最高齢の96歳の幅広い世代の方々の参加があった。また、その大合唱を間近で体験しようと3,000名以上の観客が詰めかけ、会場内は大きな熱気で包まれた。コンサート第1部は、区と包括連携協定を結ぶ公益財団法人日本相撲協会の協力で、太鼓と拍子木により幕を開け、太鼓の音に合わせて新日本フィルハーモニー交響楽団が登場し、ブラームス作曲“大学祝典序曲作品80”を演奏。続く第2部では、いよいよ合唱付きの“第九”が披露され、大友直人氏の指揮、4人の独唱とともに、約半年間の練習を経た合唱団の迫力ある歌声が、国技館を大きく揺るがし、ベートーヴェンが第九に込めた人類愛と平和へのメッセージが世界に強く発信された。

○来年参加するには

毎年6月に募集要項などが発表され、7月中旬からパートごとに募集を開始して、本番に向けた練習が始まる。初心者練習会も開催しているので、ぜひ！

第39回：2026. 2. 22 “音楽でつなごう！自由と平和の未来へ”

第1部：ベートーヴェン/レオノーレ序曲第3番 八長調 作品72b、第2部：ベートーヴェン/交響曲第九番二短調作品125（合唱付き）
 指揮：大友直人、独唱：ソプラノ/嘉目真木子、メゾソプラノ/金子美香、テノール/樋口達哉、バリトン/小林啓倫
 管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団、合唱指導：横山琢哉、合唱：国技館すみだ第九を歌う合唱団

満員御礼！

★両国の地に戻った名門スポーツ新聞社です！

1872年（明治5年）に前島密らによって創刊され、旧両国広小路（現在の中央区側）付近を拠点としていた“郵便報知新聞”を起源に持つ新聞社。戦後、読売新聞系スポーツ紙として1979年（昭和54年）に“報知スポーツ（現在のスポーツ報知）”を創刊。150周年の年に、港区港南から墨田区横網へ移転。創業の地である“両国”への復帰を果たしました。首都圏を中心に高いシェアを誇る同紙は、墨田区移転をきっかけに年に3回PR版として、地域コミュニティー季刊紙“すみだ報知”を発行している。区役所、図書館、両国観光案内所、区内の銭湯などで入手可能。



★オープンキャンパスにお越しください！（3/15）



1862年創立のアメリカ合衆国ウィスコンシン州シボイガンにあるレイクランド大学（Lakeland University）の日本校として1991年に設立。レイクランド大学ジャパンは、2022年1月に新宿区から墨田区横網に移転しました。学生の6割は海外からの留学生で、日本人の学生は、在籍中にアメリカ留学を目指します。授業もキャンパスライフも英語です。大学では、経営学を中心に約80のカリキュラムを英語で学び、卒業後は外資系企業など世界で活躍する人材を多く輩出しています。墨田区も令和6年（2024年）7月に、“英語教育の推進や、国際文化観光都市すみだの実現”に向けた協定を締結し、英語部の設立、イングリッシュキャンプの開催、多文化交流活動などを進めるとともに、区内在学在任の高校3年生を対象とした奨学金制度も始まりました。3/15午後、オープンキャンパスも！

★すみだの商店街に、ひとことどうぞ！

2月28日（土）13時から、東京東信用金庫 両国本部 10階大ホールで、“商店街×学生 ドリームプランシンポジウム”が開催されます。墨田区商店街連合会と東京東信用金庫が主催するこのイベントは、商店街が抱える様々な課題の解決について、iU大学、千葉大学、大正大学、芝浦工業大学、千葉商科大学から参加する学生からアイデアの提案を受けるものです。ぜひとも、区内の商店街関係者の皆さまのご参加をお待ちしています。（入場無料、当日の飛び込み参加も可能。）



★両国発、お花見ハイキング！

3月20日から29日まで、JR東日本主催ですみだの桜の名所を巡る“お花見ハイキング”が開催されます。今回は、両国観光案内所から錦糸町・押上経由で、隅田公園そよ風広場まで。受付は、両国観光案内所、参加無料（ただし中学生以下は、保護者同伴。）

いよいよ、その日が近づいてきました！ 詳しくは、次号を参照されたし！



“両国にぎわいMAP 2026”

が発行されました！

両国観光案内所などでも配布しています。

☆墨田区観光協会では、両国をはじめとする“本物が生きる街すみだ”について、地元ガイドによる“まち歩きガイドツアー”を実施しています。



☆江戸博では、リニューアル工事中も、さまざまな催しなどを実施しています。国際ファッションセンター1階ショーウィンドーでの展示もご覧ください！

2026年3月31日の

エドハク

リニューアルオープンまで、

あと、**1か月** くらい

■両国まちあるき 互版_其の拾 (Vol. 10_2026. 2)

☆その他の両国まちあるき情報や

バックナンバーなどは、こちらに掲載しています↓

■発行・問合せ：墨田区産業観光部観光課

KANKOU@city.sumida.lg.jp / 03-5608-6500

■協力：墨田区観光協会/両国協力会/墨田区銘品名店会

